

2年 道徳

主題名	みんなのものを大切に		
中心内容項目	C-12 主として集団や社会との関わりに関すること（規則の尊重）		
	きいろいベンチ		
令和元年	9月13日	2次公開	
児童	2年 1組	33名	
授業者	飯田 忍		

1 主題設定について

(1) ねらいとする道徳的価値（教師の価値観）

第1学年及び第2学年の内容の「C-12 規則の尊重」は「約束や決まりを守り、みんなが使う物を大切にすること」とある。

人が社会生活を営むためには、他の人の気持ちや立場を考えたり、自分の言動が他に与える影響を考えたりすることが必要である。この時期の児童は、学校生活や家庭・地域生活でも、いろいろな決まりや約束があることを知っている。しかし、約束や決まりを守ることに目が行きがちで、大切にすることはどうということなのか、どうして大切にするのか意識している児童は少ない。「決まりだから守る」「先生に言われたから守る」「守らないと怒られる」という姿もよく見受けられる。そこで、低学年のうちから、約束や決まりは、みんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることを理解し、しっかり守ろうとする意欲や態度を育てることが大切である。

(2) 児童の実態（児童観）

本学級の子供たちの多くは、学級文庫の本をきれいに並べたり、掃除道具をロッカーに片付けたりすることができている。一方では、机にいたずら書きをしたり、使い終わったマジックを元に戻さなかったりという姿も見られる。このような行為は「ちょっとくらいなら」「誰かがしてくれる」という気持ちがどこかにあることや、誰かに迷惑をかけるということを十分に理解していないからだと考える。

みんなで使う物や場所は、決まりだから大切にしなければならないということではなく、本来の使い方を理解した上で、次の人のことを考えたり思いやりを持って大切に使うという気持ちを育てていきたい。その物や場所、人を思いやる心は、子供たちが心豊かに生活することにつながっていくと思う。

【事前アンケート】

内容	結果
みんなで使うものには、どんなものがありますか。	机、ボール、クラスのぬいぐるみ、本、遊具、グラウンド、教室、体育館、トイレ、図書室 など
みんなのものを使うときに、気を付けていることはありますか。	壊さないように使う、横取りしない、約束を守る、優しく使う、大切に使う、けんかしない、大声を出さない など
それはなぜですか。	みんなにとって大切なものだから。使えなくなったら悲しいから。みんなの物は自分の物じゃないから。みんなが困るから。ルールだから。迷惑をかけないようになど

(3) 教材への思い（教材観）

本教材は、二人の男の子が中心人物である。雨上がりの公園へ紙飛行機を飛ばしに行った「たかし」と「てつお」は、黄色いベンチの上に乗って紙飛行機を飛ばし、ベンチを泥靴で汚してしまう。後から来た女の子がベンチに座り、スカートを汚してしまう。二人は、おばあさんが泥を払いながら話している言葉を聞き「はっ」として顔を見合わせるという話である。

児童の生活に身近な題材であり、楽しさに我を忘れてしまつての失敗もよくありがちなことである。楽しさに興じる二人の姿に共感し、おばあさんの話を聞いて「はっ」とした理由を考えさせたり、二人へのアドバイスを考えたりする活動を通して、本時のねらいに迫っていきたい。

2 総合単元ユニットとの関係

学校生活には、たくさんの決まりや約束がある。この授業を通して、それらの意義や意味について理解し、きまりや約束を守ることの良さや、みんなの物や場所を自分勝手に扱った時の影響などについて考えさせていく。そして、今後の生活において、それらをしっかりと守り、明るく楽しい生活をしようとする態度を育成していく。

3 研究との関わり

学び合う雰囲気づくりの工夫
教師と子供の温かい人間関係、子供同士の認め合いや励まし合いのできる関係によって、お互いが心を開き、自由に話し合うことができるようにする。

問題意識をもつようにする導入の工夫
子供が自分の問題として捉え、その追求や解決について必然性をもって行うようにする。

自我関与させる展開の工夫
子供が読み物教材の登場人物に託して自分の考えや気持ちを素直に語る中で、道徳的価値の理解を図る。

生活とつなげる振り返りの工夫
学習内容や学習活動を俯瞰して納得解をまとめることで、自分の生活や行動、今後の発展へとつなぐことに着眼する機会とする。

4 本時の学習

(1) 本時のねらい

- みんなが気持ちよく過ごすことができるように、みんなの物や場所を大切に使う気持ちを育てる。

(2) 本時の展開

	活動内容・予想される児童の反応（○発問 ◎中心発問）	教師の支援・評価・研修との関わり ●支援 □評価指標 ◎研修との関わり
価値への方向付け	<p>1 ねらいとする道徳的価値に対する興味・関心を高め、「課題」を設定する</p> <p>○みなさんは、みんなで使う物や場所を大切に使っていますか。</p> <p>○この写真を見てください。これを見てどう思いますか。</p> <p>・ゴミが落ちている ・だれがやったのだろう</p> <p>・汚れているのが嫌だな</p> <p>○今日は「みんなの物や場所を使う時に、大切なことは何か」について考えましょう。</p> <p>《本時の課題》 みんなのものや場所をよをつかう時に、大切なことは何だろう。</p>	<p>●学び合う雰囲気づくりを行う。</p> <p>●身近な公園や施設が大切に使われていない写真を提示する。</p> <p>◎子供たちが生活経験と結びつけて考えていたことと、ねらいとする道徳的価値についての意識の「ずれ」を感じさせ、問題意識を高める。</p>
	<p>2 教材「きいろいベンチ」を通して、「課題」を追求する</p> <p>○二人は、いい遊び方をしていますか。</p> <p>・していない</p> <p>・ベンチの上に乗って遊んでいる ・泥靴でベンチを汚した</p> <p>・女の子やおばあさんに迷惑をかけた</p> <p>○ベンチに乗ってはいけないとわかっているのに、なぜ二人は乗ってしまったのでしょうか。</p> <p>・紙飛行機をもっと遠くまで飛ばしたかったから</p> <p>・だれも見えていなかったし、いいなって思ったから</p> <p>・楽しい気持ちが大きくなってしまったから</p> <p>○「はっ」とした二人は、何に気づいたのでしょう。</p> <p>・僕たちのせいで、女の子たちを困らせてしまった</p> <p>・他に使う人のことを考えていなかった</p> <p>・汚してしまままにしちゃった</p>	<p>◎ベンチの使い方について、今までの生活経験と結びつけて考える。</p> <p>●ベンチはみんなの物であることを確認する。</p> <p>●ベンチに乗ってしまった行為のもとには、つい遊びに夢中になってしまい、他の人の迷惑になることまで考えていない、自分本位な心があったことに気付かせる。</p> <p>●おばあさんや女の子が、困っていることをおさえる。</p> <p>●はっとする前と後では、二人の意識の違いがあることに着目させる。</p>
	<p>◎みなさんなら「みんなの物や場所の使い方」について、二人にどんなアドバイスをしますか。</p> <p>・次に使う人のことを考えて使うといいよ</p> <p>・まわりの人もいい気持ちになるように使おうね</p> <p>・大切に使う気持ちがあるといいね</p> <p>《共通解》 みんなの物や場所は、みんなが笑顔で過ごせるように、周りの人の気持ちを考えて大切に使う。</p>	<p>◎今までの二人の行為や思いを自分事として捉え、二人へのアドバイスを考えさせることを通してねらいに迫っていく。</p>
価値の追求・把握	<p>3 価値について納得解をまとめる</p> <p>○他にも、みんなで使う物や場所がありますか。</p> <p>・体育館 ・教室 ・図書室 ・100ランド ・グラウンド</p> <p>・遊具 ・ボール ・本 ・マジック ・掃除道具 など</p> <p>○今日の学習のまとめを書きましょう。 ※本時の学習を振り返り、学んだこと、気づいたことなどをノートにまとめる。</p>	<p>◎身の回りには、みんなで使う物や場所が数多くあることに気づき、これからも大切にしていきたいという気持ちをもたせる。</p> <p>□道徳的実践意欲 みんなが気持ちよく過ごすことができるように、みんなの物や場所を大切に使う気持ちを育てることができたか。【ノート・発表】</p>
	価値の自覚・意欲化	

(3) 本時の評価

- みんなが気持ちよく過ごすことができるように、みんなの物や場所を大切に使う気持ちを育てることができたか。